

壁新聞と手紙を介した交流	(2) 小学校との連携・交流
公立保育所	千草台保育所
<実施時期>	令和2年12月
<幼児期の終わりまでに育って欲しい姿に繋がる部分>	
「自立心」「協同性」「思考力の芽生え」「言葉による伝え合い」「社会生活との関わり」 「道徳性・規範意識の芽生え」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」	
<活動のきっかけ>	
<ul style="list-style-type: none"> ・例年実施していた小学校との交流会が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、就学を控えた年長児にとっては「小学校ってどんなところ？何をやるの？」という不安感が先立ち、就学への実感が持ちにくい状況であった。 ・小学校を実際に訪れて子ども同士が触れ合うことが難しい状況下、子どもの小学校への興味関心をはぐくんでいくために保育所ができることは何かを考え、日頃から双方の職員同士で連絡を取り合うことは継続していった。その中で、子ども達が就学への期待を膨らませ見通しを持つきっかけとなるよう、小学校の許可を得て職員が校内の撮影を行い、「小学校マップ」を作成することとした。 	
<活動のねらい>	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の様子を具体的に知ることで、就学への期待感をもつ。 	
<経験する内容>	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の外観、クラスの様子など写真を通して視覚的に見ることで、保育所との違いを知り、興味・関心をもつきっかけを作る。 ・壁新聞を見て感じたこと、聞いてみたいことなどを友達同士で話し合う機会を作り、グループごとに話し合った内容を伝え合う経験をする。 ・話し合ったことを「小学校の先生に聞いてみたいこと」と題した簡単な手紙にして、実際に小学校側に届ける経験をする。 	
<新型コロナウイルス感染症に対する活動の工夫>	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学生と直接触れ合うことは難しいが、校舎の外観を見学したり、運動会の様子を隣の公園から見たりすることは可能と判断し、出来る限り関わる機会を作るようにしていった。 ・小学校の先生に聞いてみたいことなどをじっくりと年長児同士で話し合い、その思いを手紙にして伝えることを学びながら、コミュニケーションの方法を模索したり文字へ触れたりする機会としていった。 	
<活動の内容>	
<ul style="list-style-type: none"> ・マップの作成にあたっては、各教室の様子だけでなく、理科室、音楽室、家庭科室、図工室の様子など、子どものイメージする「教室でのお勉強」だけでなく、小学校ならではの特色を捉え、様々な学びのイメージを持てるように意識していった。 ・児童が作成した校内ポスターや、絵画、習字なども撮影し、マップに掲載することで、「小学生のお兄さんお姉さん達って凄い」と、就学への期待感を持てるようにしていった。 ・年長児の活動の中で「小学校の先生に聞いてみたいこと」を話し合い、質問事項をリスト化して一つ一つに回答してもらった。マップとともに 保育所内に掲示し、年長児の保護者にも活動が伝わるようにしていった。 ・校内には入れないが、周辺散歩の際には通学路を意識して小学校の外観を見て回り、小学校生活のイメージが持てるようにしていった。歩道は緑のライン内を歩くことや、押しボタン式信号の使い方、横断歩道の渡り方等について散歩を通して伝えていった。 	

<p><活動でみられた子どもの姿></p>	<p><環境構成・教材や保育者の援助等></p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の運動会を隣の公園から見学した際に、前年度の卒園児が活躍している様子を見て、「あっ〇〇くんだ!」「〇〇くんがんばれ!」と、知っている子の応援をする姿や「僕もやってみたい」と興味関心を持つ姿が見られた。 ・ 散歩中に小学生が掃除をしている様子を遠巻きに見ていると、普段から掃除をすることに意欲的な年長児が「僕も一年生になったら掃除をやりたい」と口にするなど、期待をもっている様子であった。 ・ 小学校マップを保育士が紹介すると、どの子どもも興味関心をもって見ている様子であった。廊下に掲示したところ、保護者も関心をもって、子どもと一緒に会話をしながら見て楽しむ姿もあった。 ・ 年下児に対しても「理科室にはガイコツがいるんだって!」と、写真を見て感じたことを教えている様子であった。 ・ 小学校マップを見て感じたことを話し合う中で「先生に聞いてみたいこと」を一枚の紙にまとめることになった。活動の中で「私が書いてみる」と、文字を書くことへの関心も高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染予防の観点から、外から様子を見られる範囲で、無理なくアプローチを進めていった。運動会での一年生の姿に刺激を受けている様子であったので、普段の戸外遊びで運動会での様子を真似しながら楽しめるようにしていった。 ・ 日頃から積極的に掃除をしている姿を認め、「〇〇くんは一年生になっても掃除を頑張ってくれるんだよね」と、子どもの眩きを拾いながら、全体の意欲向上に繋げていくようにした。 ・ 保護者と子ども皆が見やすい位置を考慮して小学校マップを掲示し、視覚的に伝わるように写真中心のレイアウトにしたことで、年長児だけでなく多くの児童や保護者への興味につなげていけるようにした。 <div data-bbox="794 853 1422 1205" style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">掲示した小学校マップ</p>
<p><成果と今後の課題></p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども達や保護者の目につきやすい廊下にマップを掲示したことで、年長児だけでなく年少・年中児達も足を止めて写真をよく見ていた。多くの子どもが興味を持って見ることで、子ども同士で小学校に関する話題が盛り上がるようになった。 ・ 完成したマップを見て年長児同士で思ったことを話し合ったり、自分の考えを発表したり、就学について子どもの思いがより具体的なものになった。 ・ 現在、子ども達が実際に現地を訪れ、小学生と触れ合うことが難しい状況であることから、マップの作成は保育者が中心となり実践した。今後コロナ禍が解消された際には、子ども自身が直接見たり感じたりしたことを基とし、子どもたちが主体となってマップ制作に携われるようにしていくことで、より年長児の小学校への興味関心が深まるのではないかと考える。 ・ 日頃より、地域の繋がりとしての小学校との関係性を保ち続けることで、一步踏み込んだ連携ができると考える。これまでの、小学校から招いていただく幼保小交流会という限られた機会だけでなく、日常的に子ども同士または職員同士が行きできる環境を大切にしながら互いの思いを共有することが、より良い幼保小の接続につながるのではないかと考える。 	
<p><カリキュラムコーディネーターのコメント></p>	

例年実施していた小学校との交流会が「コロナ禍」で実施できない中で、「小学校マップ」の作成と掲示によって子ども達の小学校に対する興味関心と期待を高めることができ、話し合いにも繋がっていました。その際、「教室でのお勉強」以外の様子も伝えたり、「小学校の先生に聞いてみたいこと」に回答してもらったりという工夫が有効であったと感じます。また、小学校の運動会を隣の公園から見学したことで、子ども達が一年生の姿に刺激を受けたエピソードから、「コロナ禍」の制限はあっても子どもにとって実際の小学生の姿を見ることの意義の大きさが伝わってきました。